

や間伐等特措法に基づき認定された特定増殖事業者等の皆様による採種園等の適切な整備・管理が重要となっています。このため、新たに立ち上げた「特定母樹等普及促進会議」や「林木育種連携ネットワーク」等を通じた技術情報の提供や研修会の開催等により、これら関係者と一体となった取組をさらに進めていきたいと考えます。

森林資源の有効活用による地域の活性化や気

候変動への対応など様々な課題に対応しながら、それぞれの地域に根ざした豊かで多様な森林の恵みを持続的に未来につないでいくためには、林木育種事業にゴールはなく、これまでの60周年の歩みを新たな立脚点とし、都道府県や国有林、大学等研究機関、その他関係者各位のご理解とご協力のもと、林木育種のさらなる発展を目指して努めて参る所存です。

無花粉スギの種苗生産拡大に向けた技術開発

1. 花粉発生源対策と無花粉スギ

スギ花粉症は国民の約3割が罹患しているとされており、大きな社会的問題となっています。毎年、1月頃から天気予報などでスギ花粉の飛散時期や飛散量についての話題が多くなり、私達の生活にとって大変身近となっています。原因となっているスギ花粉の飛散量を抑制するため、少花粉スギや低花粉スギと並んで無花粉スギの開発と普及が進められていますが、平成27年度の花粉尘対策苗木全体の生産本数が約426万本とされている中で無花粉スギの本数は約1万本余に留まっています。

2. 無花粉スギの普及拡大を図るための技術開発

無花粉スギの苗木生産量を短期間で増大させるためには、無花粉種子を増産する必要があります。また、無花粉スギの場合、苗木を育成する段階で、花粉を出さない不稔の苗木と通常のスギのように花粉を生産する苗木を選別する必要がありますが、これまでこの選別作業に多大な労力とコストを要しており、省力化・効率化が必要となっています。この他、現段階では成長性等が優れた林業的に魅力のある無花粉スギの種類が限られており、また各地の気候にあった無花粉スギの苗木生産のためには無花粉スギのリソースを拡大する必要があります。

3. プロジェクトでの技術開発の概要

このような無花粉スギの苗木生産量の拡大に向けた課題を解消することを目的として、今年度より、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業の実用技術開発ステージ

の新規課題として、林木育種センターが代表機関となり、青森県、山形県、東京都、神奈川県、富山県、静岡県、青森県森林組合連合会、神奈川県山林種苗協同組合とコンソーシアムを形成し、「革新的技術による無花粉スギ苗木生産の効率化・省力化と無花粉品種の拡大」(平成29～31年度)を開始しました。このプロジェクトでは、1) 種子生産、2) 苗木生産、3) 無花粉リソースの拡大の3つの段階のそれぞれで技術開発を行います。技術開発にあたっては、農業分野で開発された技術の導入や、休耕地を活用した苗木生産の省コスト化など、これまでにない新しい視点からの取り組みも進めます。この内、林木育種センターでは、これまでに各都県や林木育種センターで開発してきた無花粉スギを採種園で有効に活用するために、DNA分析により無花粉スギの関係性(類縁関係)を明らかにし、採種園設計などに活用できるよう、無花粉スギの類縁関係や特性をカタログとして取りまとめることに取り組みます。

(育種部 育種第一課 高橋 誠)



図1 無花粉スギにかかる農食研事業における技術開発のための課題構成の概要